

第40回日本肥満学会・第37回肥満症治療学会にて優秀演題賞受賞

第40回日本肥満学会・第37回肥満症治療学会の初の合同開催（2019年11月2日～3日：東京国際フォーラム）において、琉球大学大学院医学研究科 内分泌代謝・血液・膠原病内科学（第二内科）山崎聡助教が優秀演題賞（President's Award）を受賞しました。

山崎助教は2019年7月に開催されました西日本肥満研究会での若手臨床研究奨励賞に引き続いての受賞となり、研究のさらなる発展が大きく期待されています。

演題名は「幼若期のニコチン暴露によって決定される成人期肥満のマウス病態モデルを確立し、その脳内分子機構を解明」であり、琉球大学大学院医学研究科内分泌代謝・血液・膠原病内科学（第二内科）益崎裕章教授及び福島県立医科大学糖尿病内分泌代謝内科学 島袋充生教授らの共同チームで研究を行いました。

本研究は、早期ライフステージの環境因子とその後の疾患感受性の変容に焦点をあてたものであり、新たな生活習慣病の予防・治療戦略の構築につながり、健康寿命の延伸に向けて画期的な成果として注目されています。



- 壇上手前（左）：横手 幸太郎 日本肥満学会会長
（千葉大学大学院医学研究院 内分泌代謝・血液・老年内科学 教授）
- 壇上手前（右）：山崎 聡 助教
- 壇上奥（右）：細谷 好則 日本肥満症治療学会会長
（自治医科大学外科学講座 消化器一般移植外科部門 教授）